

## 既存住宅の耐震診断・耐震改修を進めます！

### ■耐震診断及び耐震改修を図るための支援策等■

厚岸町では、町民に対し「**無料簡易耐震診断**」等を通じ、建築物の耐震診断及び耐震改修の必要性、重要性について普及啓発に取り組んでいます。また、「**既存住宅の耐震改修及び解体に対する補助金**」等の補助制度を創設し、建築物の耐震改修の促進に取り組んでいます。

その他、耐震性能を満たさないとされた住宅の建替や、各種リフォーム等の支援も行っています。

#### ■既存住宅の耐震改修及び解体に対する補助金

- ◆対象 | 現在居住している既存住宅(昭和56年5月31日以前に着工されたものに限る)が、専門機関の耐震診断の結果、現行の耐震性能を満たさないとされた場合、耐震改修工事及び解体工事の工事費の一部に対し補助金を交付
- ◆助成額 | 耐震改修/上限30万円、解体/上限20万円

#### ■住宅リフォーム支援助成金

- ◆対象 | 10万円以上となる工事(増築、改築、修繕工事)  
助成額/対象工事費の10%(65歳以上または中学生以下の子どもがいる世帯の場合は15%)
- ◆上限額 | 1戸当たり20万円

#### ■住宅新築支援助成事業

- ◆対象 | 町内業者を利用し、新築する(床面積が50平方メートル以上の住宅で外構工事、敷地造成工事を除く工事費が1,000万円以上)場合、助成金を交付
- ◆助成額 | 50万円(子育て世帯加算、扶養親族加算で最大70万円)

#### ■住宅新築資金に対する利子補給助成金交付

- ◆対象 | 町内業者を利用して住宅を新築(床面積が50平方メートル以上の住宅で外構工事、敷地造成工事を除く工事費が1,000万円以上)し、金融機関等から住宅資金を借り受けた場合
- ◆助成額 | 助成金として利子相当額(上限30万)を交付

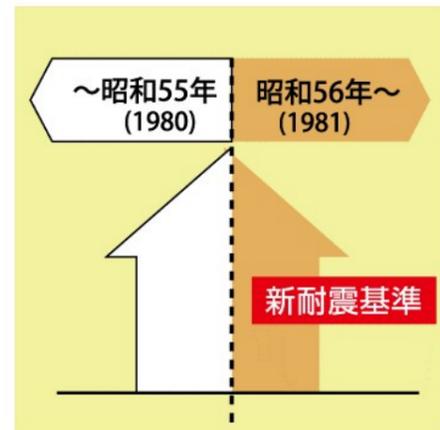
## あなたの家の耐震性能は大丈夫！？

### 住宅が建てられた時期はいつ？ 新耐震基準について

現在の耐震基準は、昭和56年(1981)にできたもので、それ以前のものとは区別するために「**新耐震基準**」と呼ばれています。現在、すべての建物はこの基準で建てられています。昭和56年(1980)以前に建てられた住宅にお住まいの方は**特に注意してください**。

### 強い地震にも耐えられる？ 新耐震基準とは

「**新耐震基準**」の目的は、震度5程度(中程度)の地震の際には“建物が壊れない”ようにすること、震度6程度(強い地震)の際には、“建物の倒壊を防ぎ、中にいる人の安全を確保できる”ようにすることです。



◇無料簡易耐震診断や耐震改修、ほか住宅に関する支援等については、厚岸町役場建設課建築係にお問い合わせください。

■厚岸町役場 建設課建築係 電話番号 52-3131

## 厚岸町耐震改修促進計画

厚岸町では、令和6年3月『厚岸町耐震改修促進計画』の見直しを行いました。計画は耐震性に不安がある既存の建物(旧耐震基準で建築された既存建築物)の地震に対する安全性の向上を、計画的に進めて行くものです。本町への地震の影響や被害の検討を行い、想定される地震による被害を半減させるための目標を定め、取組を進めて行くこととしています。

ここでは、厚岸町耐震改修促進計画の概要について紹介いたします。

### 計画の目的

厚岸町耐震改修促進計画(以下、「本計画」という。)は、安全・安心なまちづくりを推進するため、厚岸町区域内の建築物の耐震診断及び耐震改修等に関する目標を設定し、基本的な方向や具体的な方策などについて定め、今後の厚岸町における建築物の耐震化施策を総合的かつ体系的に推進することを目的としています。

本計画は、令和6年度~13年度までを計画期間として策定しました。

これまでの耐震化施策の実施状況及び検証を踏まえて、旧耐震基準で建築された既存建築物の地震に対する安全性の向上を、より一層計画的に推進して行くこととします。

### ■厚岸町における地震の想定■

想定される最大の揺れ  
震度7以上

本町に大きな被害をもたらす地震は、①「千島海溝地震」、②「十勝沖地震」、③「根室沖地震」が想定されます。なお、千島海溝地震では震度7の揺れが予測されます。  
\*詳しくは裏面「ゆれやすさマップ」をご覧ください。

### ■人的被害・建築物被害の想定■

想定される最大の被害  
負傷者120名、全半壊1,230棟

想定の結果は、震度が最大となる千島海溝地震が起きた場合の想定で、人的被害は負傷者等が概ね120名程度、また、建物の全半壊棟数は概ね1,230棟程度と想定されます。  
\*詳しくは裏面「被害想定マップ」をご覧ください。

### 建築物の耐震化に係わる目標

厚岸町においては、想定される地震による町内の建築物被害を半減させるため、「住宅及び多数のものが利用する特定建築物の耐震化率を2030年(令和12年)までに“概ね解消”することを目標とします。」

### ■住宅の耐震化の現状と対策■

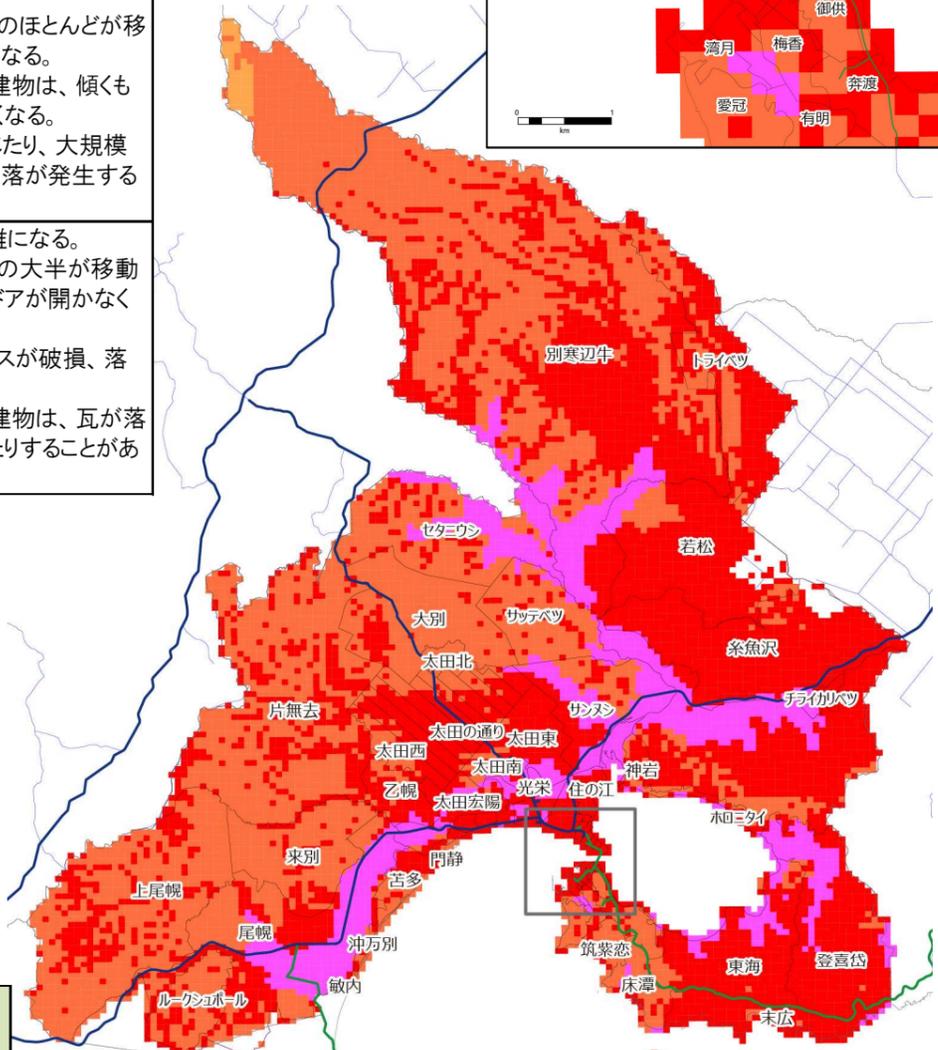
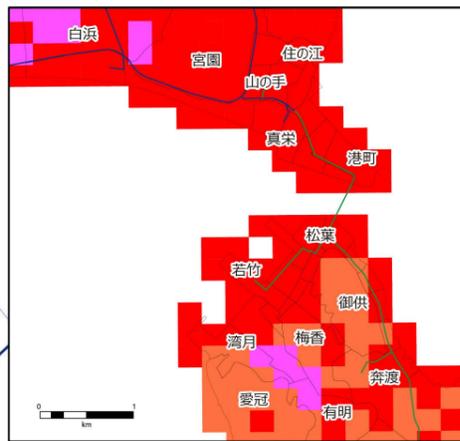
厚岸町における民間住宅は、3,788棟あり、耐震化率は約7割と想定されます。住宅の耐震化率を“概ね解消”とするためには、**今後、耐震性不足と想定される1,000棟程度の住宅を耐震化する必要があります。**

# 厚岸町で大きい被害が想定される地震と震度

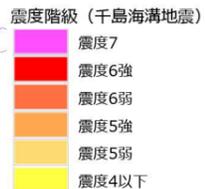
## 揺れやすさマップとは？

- ◆揺れやすさマップは、厚岸町に影響ある千島海溝地震が発生した場合の震度の最大値を表現した震度分布図です。(250mメッシュ)
- ◆厚岸町では、千島海溝地震による揺れが最大となり、町内全域の過半が震度6弱以上となっており、一部、国道44号沿道や別寒辺牛地区を中心に震度7の地域も見られます。

	人や建物の状況
震度7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。</li> <li>◆耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。</li> <li>◆耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。</li> </ul>
震度6強	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆はわないと動くことができない。飛ばされることもある。</li> <li>◆固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。</li> <li>◆耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。</li> <li>◆大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩落が発生することがある。</li> </ul>
震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆立っていることが困難になる。</li> <li>◆固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。</li> <li>◆壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。</li> <li>◆耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</li> </ul>



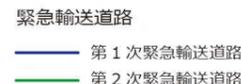
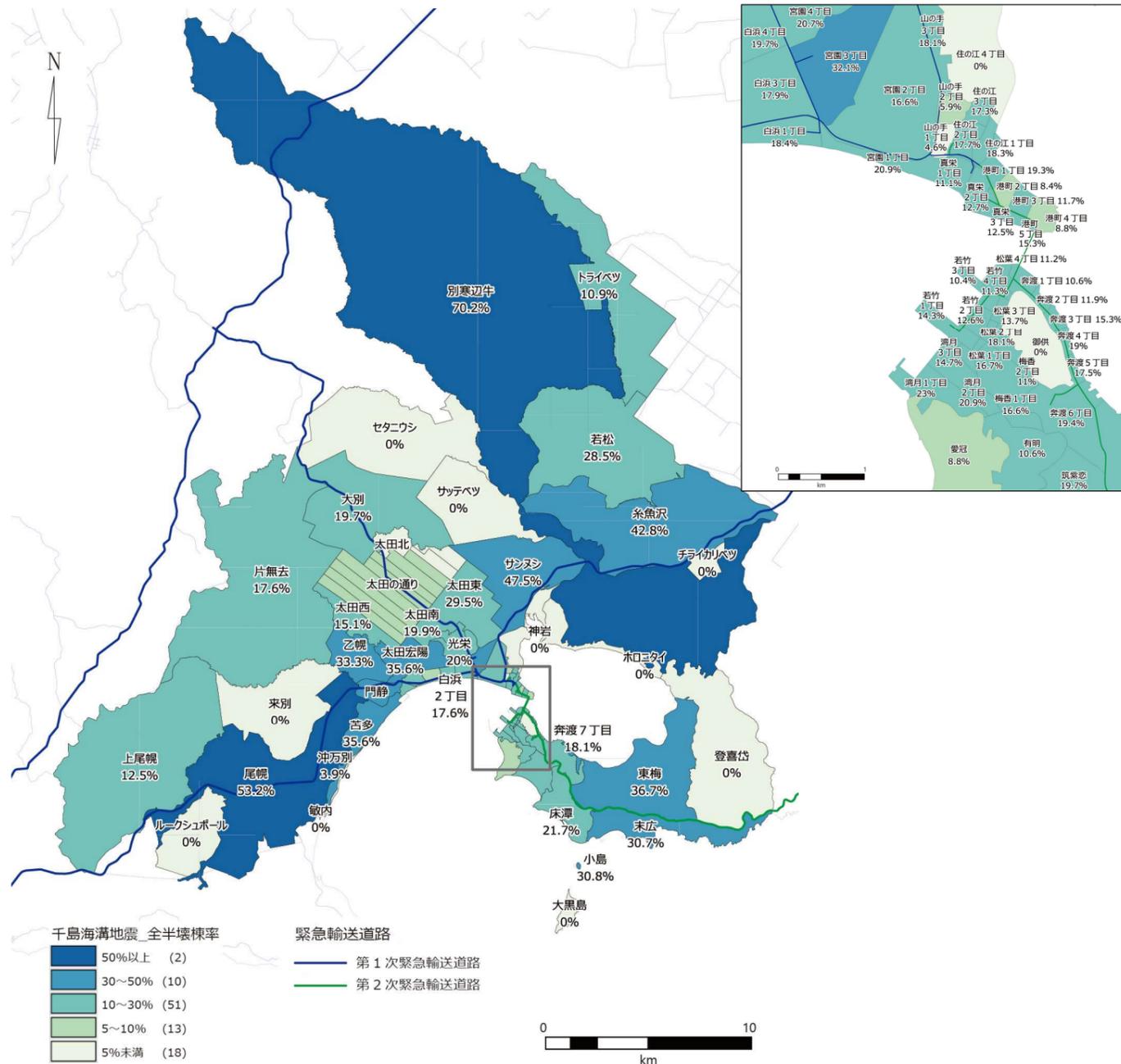
想定地震	最大震度 (震度階級)	平均震度 (震度階級)
千島海溝	6.92 (7)	6.1 (6強)
十勝沖	6.1 (6強)	5.5 (6弱)
根室沖	6.0 (6弱)	5.3 (5強)



# 厚岸町における想定地震による被害

## 被害想定マップとは？

- ◆被害想定マップは、地震による揺れによって発生する建物被害の分布を表したものです。図は千島海溝地震における地区別の被害を全半壊率として示しています。地区の建物が受ける被害が大きいほど、全半壊率のパーセンテージは高くなります。想定では震度の高い別寒辺牛地区が70.2%で最も高く、次いで尾幌地区が53.2%となります。



## 家具や家電製品の地震対策をしましょう

住宅の全壊は免れても、ガラスの飛散やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の電化製品が飛んでくるといった、日常の生活からは想像できない事態によって、思わぬケガをしたり、避難が遅れて火災に巻き込まれたりすることがあります。

## 地震対策として考えられるもの

- ◆固定器具を用いて家具や電化製品を固定する。
- ◆食器類の収納物が飛散することがないように、扉の開閉を防ぐ器具を取り付ける。
- ◆睡眠や食事をする場所の近くに、家具や電化製品をなるべくおかない。
- ◆家具の中では、下に重いものの上に軽いものを置く。
- ◆ガラス面には飛散防止フィルムを貼る。